

第13期Aコース（ニュージーランド）帰国レポート

令和7年1月に出発した第13期Aコースの研修生が、同年11月29日（土）に、ニュージーランドから日本に帰国しました。

留學生活に対する期待や不安の中、ホストファミリーやホストスクールの先生をはじめ、友達や現地留學受入機関の方々など多くの人に支えられ、留學期間を終えることができました。

ニュージーランドの北島各地に留學していた研修生たちは、滞在していた地区から、帰国前の特別プログラム会場であるオークランドにあるオークランド工科大学の寮（ATU Auckland Accommodation）に集合しました。

<特別プログラム 第1日>

オークランド市内の散策では、オークランド美術館（Auckland Art Gallery マオリ語表記：Toi o Tamaki）に立ち寄り、ゴッホやピカソなどの有名な画家の作品を鑑賞するとともに、ニュージーランドの先住民であるマオリ族の文化財を楽しみました。

寮での留學の振り返りの中では、グループに分かれ、留學中に直面した課題や問題、留學の経験を通して学んだことや成果について英語で報告しました。研修生の中には、「自分に自信がもてるようになった。」と笑顔で報告しており、とても充実した留學生活だったことが垣間見えました。



【オークランド大学】



【市内散策の様子】

<特別プログラム 第2日>

午前は大学の講師による講義が行われました。グローバル化のメリットとデメリットや、グローバル社会におけるリーダーに必要な資質・能力について考えました。

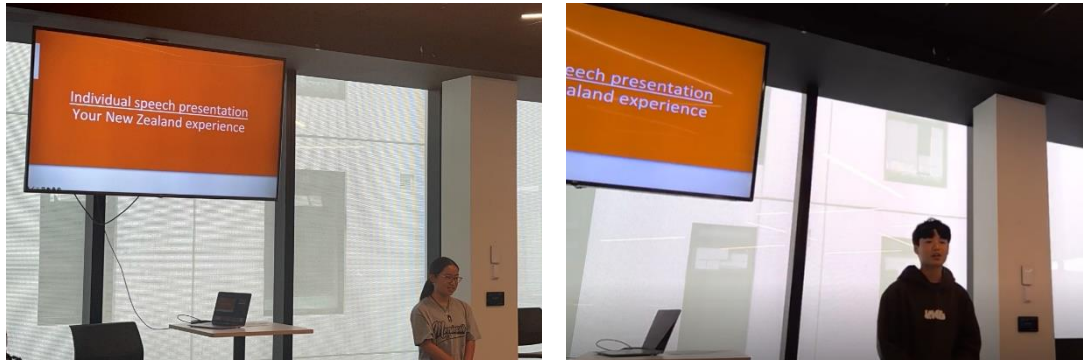
また、オークランド大学（Auckland University）の学生による、キャンパスツアーに参加しました。広大な敷地にある様々な大学の施設を紹介していただき、オークランド大学の魅力について話を聞いて、海外大学進学への興味が高まりました。



【特別プログラム中の様子】

午後は、都立高校出身で、ニュージーランドで教員免許を取得し、ニュージーランドの高校で日本語を教えている方と、ペーパーフィルターコーヒーの販売がほとんど行われていなかったニュージーランドでパイオニアとして未開拓の市場で実際に会社を起業された経営者の方のお二人から、「将来の職業や進路について」というテーマでお話ししていただきました。現地で働く日本出身の方から海外での就学や就労経験を聞き、進路やキャリアについての考えを深めることができました。

最後に、10 か月間のニュージーランドでの留学経験について、英語でプレゼンテーションを行いました。留学を通して学んだこと、成長できたことについて、流れるような英語で発表する姿は、とても輝いて見えました。



【プレゼンテーションの様子】

それぞれが成長した10 か月間。この経験を生かして、次世代のリーダーとして活躍することに期待しています。